

昭和の まちなか思い出 写真集



勝山地区エコ推進協議会

昭和の
まちなか思い出
写真集

勝山地区エコ推進協議会

発刊にあたり

時代とともにまちの風景や人々の生活は移り変わり、そこに住む人たちも移り変わっていきます。

しかし、その時代を過ごした数々の思い出は私たちの心の中にいつまでも残っているものです。

今回発刊しました「昭和のまちなか思い出写真集」では、昭和初期から中期頃までのまちなかの様子を、ご提供いただいた写真をもとに心に残る思い出を振り返り、懐かしんでいただけるよう編集をいたしました。

当時のまちなかの姿を知る方には一寸昔を振り返っていただき、今日の姿しか知らない世代の方々と共に、私達の住むまちの話題に花を咲かせて頂ければ幸いと存じます。

また発刊に際しましては、写真提供を勝山公民館の広報誌より募集しましたところ、思い出の品をこころよくお持ち寄り下さいました市民の皆様方に、深く感謝申し上げます。

この写真集を、私達のまちなかの思い出の記録として末永く残して頂きます様よろしくお願い申し上げます。

勝山地区エコ推進協議会

左義長祭り



昭和29年 ^{むすめ おど}娘手踊りの左義長 ^{やぐら}櫓

左義長手踊りは、江戸時代～大正時代の三町芸（郡町、袋田町、後町の三町で競われた手踊りや素人歌舞伎）の名残りとして子供手踊りが昭和35年頃まで櫓の上で披露され、櫓の前は黒山の人だかりでした。

また、この頃に初めて女子が櫓の上に上る事がゆるされました。



左義長名物の^{え あんどん}絵行燈が本町通り仕々の電柱などに吊るされました。

祭りの見物客は、おもしろおかしく時代の世相を風刺した^{きょうか}狂歌を楽しみました。

昭和29年 ^{え あんどん}左義長の絵行燈



昭和29年 酒井石油店軒下の押し絵額

大正時代に作られた押し絵額（^{かなでほんちゆうしんぐら}仮名手本忠臣蔵）は軒下に飾られ、祭り見物の人達が見上げ、左義長名物として人気がありました。

その他、^{つつおえ}包み押し絵も吊されました。

写真奥の看板にあるように、20世紀の偉大な発見のひとつとも言われているペニシリンと言う新薬はこの頃に発売されました。



上郡区の包み押し絵

春の長山

春の行楽といえば花見。

この頃、九頭竜川堤防の桜は下流にしか植えられていなかったため、長山公園はたくさんの桜の木のもと、花見の団体客で大変な賑わいでした。



昭和30年頃 花にうかれて



昭和33年4月 長山の花見

走りやんこ

明治19年4月13日、勝山町を焼き尽くした勝山大火のあったこの日を、春季消防演習の日とし、演習後に開催される走りやんこでは、12の消防団を、幕末の火消組の色、青、赤、黄、白、黒の五色に茶色を加えた6チームとし、長湊の茶所橋をスタート。

^{まとい}縄をバトン代わりにリレーをし、ゴールの長山公園目指して熱き闘いを繰り広げました。



昭和15年4月13日 走りやんこ 長山公園ゴール前



七 夕

7月7日には町内の家々で七夕が行なわれ、軒先には竹に短冊をかけた七夕飾りがいたるところで見られました。

写真は、神明神社東側、くらがり横町の家々の七夕の様子です。



昭和27年 神明神社東参道 くらがり横町



昭和27年 神明神社社務所前にて
幼稚園児のスナップ



勝山夏祭り

勝山夏祭りは昭和30年の第1回から、平成13年の第47回まで、勝山商工会議所が中心となっておこなわれました。



昭和35年 第6回 勝山夏祭り



昭和45年 第16回 勝山夏祭り



昭和45年 第16回 勝山夏祭り



神明神社 祭礼



昭和26年 神明神社祭礼御前角力風景 ごぜんすもう



おしんめさん祭りの愛称で親しまれている神明神社の祭礼は、9月17日から19日の3日間行われ、本町見付けから境内の中まで夜店が並び、県下でも有数の秋祭りです。

神明祭 上袋田区大提灯 おおちょうちん

境内では、ガマの油売りや鉄砲落し、トコロテン、輪投げなどの夜店（露店）が並んでいました。

夜店（露店）では、今ではもう見られなくなったハッカパイプ、お面、布やバナナの叩き売り、表札、占い師、へび使い、瀬戸物屋、金魚すくい、賭け将棋、パチンコなどが百数軒並んでいました。



いせかぐら
伊勢神楽



昭和31年 本町通りの様子